

## 「巡検会報告」

# 「霧島火山巡検」

黒木恵史<sup>1)</sup>・原浩太郎<sup>1)</sup>・内田暁雄<sup>2)</sup>・永岡由利子<sup>2)</sup>

### 1. はじめに

平成 21 年 8 月 8 日（土）から 10 日（月）にかけて、熊本大学名誉教授の渡辺一徳先生の案内で巡検会が行われた。今回の巡検の目的は霧島火山群の作った火山地形や噴火物の観察であった。天候の関係で予定を変更し、2 日目は桜島巡検を行うことになった。参加者は 23 人であった。

### 2. 巡検の行程と観察地点

[ 8 月 8 日（土） ] ～ 韓国岳周辺 ～

1 日目は悪天候のため、当初予定されていた韓国岳登山が中止され、麓の火口湖池めぐりコースを散策した。

#### ① 不動池火口湖

不動池火口湖は非常に澄んだ青色を呈していた。阿蘇の中岳火口湖に近い色をしており、酸性の水で湖を作っていることを示している。また、澄んでいるのは、珪藻のような植物が生育できる環境ではないためであるということだった。

---

1) 熊本大学教育学研究科 2) 熊本大学教育学部

## ②硫黄山登山

硫黄山は標高 1310m の山で、1768 年にできた山である。硫黄の結晶も採取することができるようであるが、立ち入り禁止になっている場所が多かった。

## ③不動池火口湖・御池周辺散策

このルートは整備されており、多少のアップダウンはあるが歩きやすかった。途中には巨大杉や御池があった。御池の水はなめても硫黄臭さはなく、不動池のような噴火の名残はほとんどなかった。白鳥山北展望台に上ると、御池を眼下にこしきだけ 瓶岳を見ることができた。

## ④鹿児島・霧島神宮

ここには 1 円玉の表に描かれている若木や、国歌で有名な「さざれ石」などが観察できた。この「さざれ石」は石灰質角礫岩であった。

[8月9日(日)]～桜島～

2 日目も悪天候のため、御鉢・高千穂峰の登山が中止され、霧島市国分にある上野原遺跡・縄文の森を見学した後に桜島巡検をすることとなった。桜島巡検は主に日本の火山③・九州の火山(高橋正樹・小林哲夫, 築地書店)をもとに行った。

## ⑤上野原遺跡・縄文の森

縄文時代の遺跡が出土した場所に作られた施設である。本来、工業団地となる予定だったが、遺跡が発見されたため、工事を中止し、施設を作ったということであった。ここでは竪穴住居跡のくぼみから約 9500 年前の桜島火山灰が確認されていることから、それ以前から縄文人が定住していたことになる。また、連結土坑や土器・石器も発掘したときのままの姿で見学することができた。

## ⑥天平・昭和溶岩

ここでは写真 1 に示すような土石流堆積物を観察することができた。土石流堆積物では、粒径の細かい礫を潤滑剤のようにして粒径の大きな礫が運搬されるため一般的な堆積物のような級化層理とは逆の構造を見ることができる。ま

たこの地点では鍋山も観察することができる。



写真 1 土石流堆積物による逆級化層理

## ⑦黒神・埋没鳥居

多くの教科書にも載っている埋没鳥居を訪れた。鳥居は 3 m あり、堆積した降下軽石・火山灰層は 2 m に達したと見積もられている。

## ⑧桜島ビジターセンター

ここでは桜島に関する映画や全体像を示した模型などが展示され、桜島の火山形成史をやさしく理解できる施設となっていた。裏にある海岸では偽枕状溶岩を観察することができた。写真 2 を見てわかるように岩塊の亀裂から節理が発達している。これは、岩塊のひびの隙間などに水が入り込みそこから冷えて節理が発達したものだと考えられている。



写真 2 偽枕状溶岩に発達する節理

## ⑨有村溶岩展望台

展望所からは、桜島が大正 3 年に噴火したときの溶岩を見学することができた。海側の採石場を見ると、溶岩の流れの跡が縄状にくねって堤防のようになっている地形を観察できた。移

動しようとした際、タイミングよく桜島が噴火し、火山雷や黒煙を上げている様子を見ることができた（表紙写真）。

[8月10日（月）]～御鉢・高千穂の峰～

⑩御鉢・高千穂峰登山

天孫降臨の神話を持つ高千穂峰には、登山口から歩いて約1時間の御鉢を通り、そこからさらに約30分歩いて登頂した。高千穂河原から御鉢までの斜面には1235年に御鉢から噴出したスコリアがあるため登りにくかった。ほとんど霧がかっていたが、晴れ間に御鉢の火口の様子を見ることができた（写真3）。

高千穂峰の山頂からは新燃岳、中岳、始良カルデラの平野部を遠望することができた。

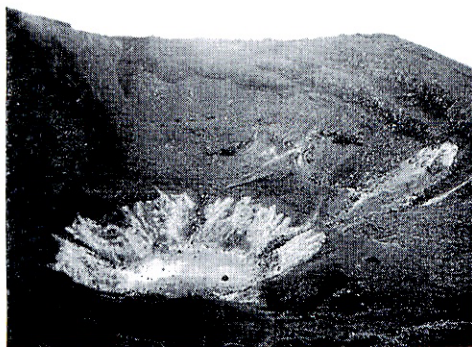


写真3 御鉢の火口

⑪ひなもりだけ夷守岳の岩屑なだれ堆積物

夷守岳の北東の位置には多数の小高い地形が見られる。これらは夷守岳が崩壊したときの流れ山と呼ばれるもので、高速道路から見える民家裏の露頭では、流れ山とアカホヤ火山灰、入戸火砕流等の層序関係が観察できた。

3. おわりに

今回の巡検会により、霧島火山・桜島を非常に身近に感じることができるようになるとともに、火山地形や火山活動に伴う堆積物・噴火物を観察できる充実した内容の巡検会であった。特に、眼前で桜島の噴火を見ることができたことは貴重な体験となった。

最後に、悪天候による予定変更にもかかわらず、終始丁寧なご説明をいただいた渡辺一徳先

生、運営をしていただいた会長の堀川治城先生・馬場正弘先生に深く感謝の意を表し、巡検会の報告とする。

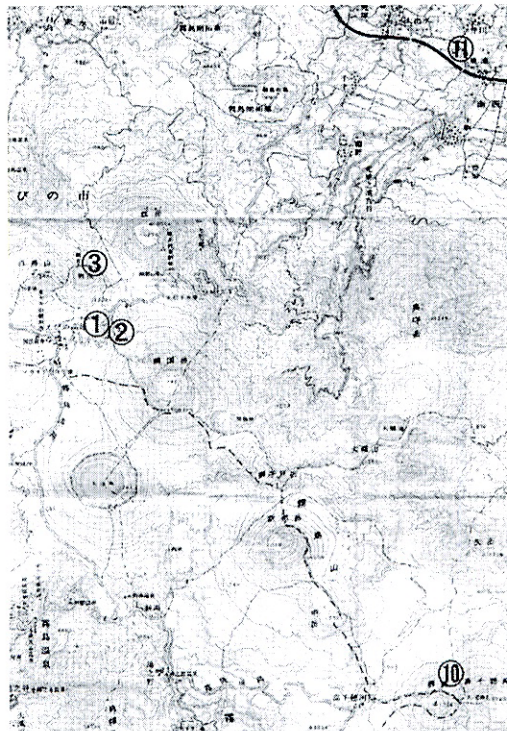


図1 霧島火山巡検地点

（国土地理院，5万分の1地形図「霧島山」より一部引用，改変）

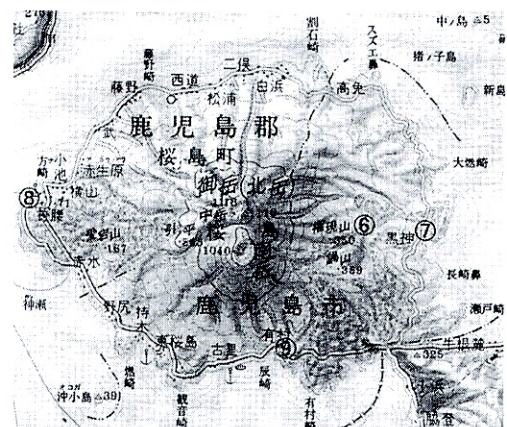


図2 桜島火山巡検地点

（国土地理院，20万分の1地勢図「鹿児島」より一部引用，改変）